

2007年7月19日

国際学術戦略本部 (OFIAS) Brown Bag Forum 発表用資料

作成者: OFIAS インターン 須田丈夫

Mail: [suda.takeo.che@gmail.com](mailto:suda.takeo.che@gmail.com)

《ボローニャ・プロセス》  
〈ボローニャ・プロセスの概要〉

[Council of Europe](#) 『ヨーロッパ評議会』公式ホームページ上の『Higher Education and Research – Bologna Process』から抄訳

[http://www.coe.int/t/dg4/highereducation/EHEA2010/BolognaPedestrians\\_en.asp](http://www.coe.int/t/dg4/highereducation/EHEA2010/BolognaPedestrians_en.asp)

《ボローニャ・プロセスとは?》

1999年にイタリアのボローニャで採択された『ボローニャ宣言』に基づく、ヨーロッパの高等教育の改革プロセスを指す。2010年までに『ヨーロッパ高等教育エリア』[European Higher Education Area][=EHEA]を設立することを目指す。数多くの国際機関と46のヨーロッパ圏の国家が参加している。

〈ボローニャ宣言骨子〉

2010年までの10年間で以下を達成する

- ・ 容易に価値がわかり比較可能な学位制度の確立
- ・ 大学教育を学部課程と大学院課程に分ける2サイクル制の確立
- ・ ヨーロッパの教育機関間の単位互換制度の導入
- ・ 学生、教員、研究者、大学職員の自由な移動の促進
- ・ 大学教育の質的保証に向けての協力
- ・ 高等教育におけるヨーロッパ的視野の普及促進

《ボローニャ・プロセスにより高等教育システムで達成されること》

- ・ ヨーロッパ高等教育エリア内での人的移動を自由にする。研究活動と雇用が促進されること。
- ・ ヨーロッパの高等教育の魅力を高めること。非ヨーロッパ諸国から、ヨーロッパで働くことや研究することを目的に移転してくる人の数を増やす。
- ・ 広範な研究を行う、高度かつ先進的な知識拠点を作る。安定・平和・寛容を特色とする共同体であるヨーロッパのさらなる発展を目指す。

注意点: ボローニャ・プロセスは政府間条約に基づいておらず、法的強制力はない。自発的に加盟諸国が参加するもの。

2010年までにヨーロッパの全構成国が均質な高等教育システムを持つことは予期されていない。むしろ、ヨーロッパの価値ある特色は多様性と一致のバランスがとれていることである。目標は教育機関の間の自由な移動を促進することである。それゆえ、学位のシステムがヨーロ

ツパ各国の高等教育機関の間で統一されても、各高等教育機関固有の特性は保持される。

《ボローニャ・プロセスはどのように組織されるか?》

国家間、国家内部、高等教育機関内部でボローニャ・プロセスの進展のためにそれぞれが実施する方策が考案され、実行に移されている。

<国家間レベル>

ボローニャ宣言の目標達成のため、ボローニャ・フォローアップグループが組織され、全加盟国、EU委員会、EU評議会、他の多くの諮問組織が参加している。

また、ヨーロッパ中で多くのセミナーが開催されており、ボローニャ・セミナーと呼ばれている。ボローニャ・プロセスに関する問題や、プロセス実施に当たっての障害、協力の可能性などが話し合われている。

二年ごとに加盟国の教育大臣が集う会合が開かれている。進捗状況を評価し、次期に向けてのガイドラインと優先順位を決定している。これまでに、2001年にプラハで、2003年にベルリンで、2005年にベルゲンで、2007年にロンドンで開かれた。

<国家レベル>

政府、教育大臣、学長会議、大学協会、学生組合、また有る場合には外部の評価機関、雇用者が関わっている。多くのヨーロッパの国ではすでに法制度をプロセスに合わせて改革した。また、改革の準備が進められている。また、各国の状況によるが、ある国では『ETCS』(=European Credit Transfer System)[ヨーロッパ単位互換制度]を導入している。

<各高等教育機関レベル>

学部・学科の代表、学生・教職員の代表、そして他の大勢の参加者が関わる。優先順位は国や機関ごとに異なる。

しかし、「機関レベルで十分な実行がなされなければ、ボローニャの目標で達成されるものは少ないだろう。」(欧州評議会公式ホームページ見解より)

<ボローニャ・プロセス参加国 計46カ国>

**1999年** ボローニャ宣言署名国 29カ国

アイスランド、アイルランド、イギリス、イタリア、エストニア、オーストリア、オランダ、ギリシャ、スイス、スウェーデン、スペイン、スロバキア、スロベニア、チェコ、デンマーク、ドイツ、ノルウェー、ハンガリー、フィンランド、フランス、ブルガリア、ベルギー、ポーランド、ポルトガル、マルタ、ラトビア、リトアニア、ルクセンブルク、ルーマニア

**2001年** プラハサミットで4カ国加盟

キプロス、クロアチア、トルコ、リヒテンシュタイン

**2003年** ベルリンサミットで7カ国加盟

アルバニア、アンドラ、セルビア・モンテネグロ、バチカン、ボスニア・ヘルツェゴビナ、マケドニア、ロシア

**2005年** ベルゲンサミットで5カ国加盟

アゼルバイジャン、アルメニア、ウクライナ、グルジア、モルドバ

**2007年** ロンドンサミットで1カ国加盟

モンテネグロ

〈他の参加機関〉

[European Commission](#) 『欧州委員会』 – 欧州連合（EU）の行政執行機関。

[Council of Europe](#) 『欧州評議会』 – 諮問メンバー。46の加盟国からなる、ヨーロッパの政治機関。

[EUA\(European University Association\)](#) 『欧州大学協会』 – 諮問メンバー。ヨーロッパの諸大学と学長会議を代表する機関。ヨーロッパの高等教育・研究の一貫したシステム構築を推進する。また、ヨーロッパ高等教育エリアの設立にあたり、自身の役割の強化を目指している。

[EURASHE\(European Association of Institutions in Higher Education\)](#) 『欧州高等教育機関協会』 – 諮問メンバー。大学を除くヨーロッパの高等教育機関を代表する組織。

[ESU\(The European Students' Union\[former ESIB\]\)](#) – 諮問メンバー。ヨーロッパの諸学生組合を代表する組織。

[UNESCO-CEPES\(European Centre for Higher Education\)](#) 『ユネスコ・ヨーロッパ高等教育センター』 – 諮問メンバー。ユネスコ事務局の支部。ヨーロッパ地域のユネスコ加盟国間の高等教育における協力関係を構築する。

[ENQA\(The European Network for Quality Assurance in Higher Education\)](#) 『ヨーロッパ質保証ネットワーク』 – 諮問メンバー。ヨーロッパの高等教育の質保証機関のための包括的組織。

[Education International Pan-European Structure](#) – 諮問メンバー。

[BUSINESSEUROPE, The Confederation of European Business](#) – 諮問メンバー。

《ボローニャ・プロセス進捗状況》

〈2001年：プラハにて閣僚級会議（プラハサミット）〉

本会議後、次回会議までの2年間のガイドライン（プラハ・コミュニケ）採択。

プロセスに付け加えられた新項目

・学生は本プロセスの意思決定に他の参加メンバーと対等な立場で加わる。そして、ESIB（The National Unions of Students in Europe）はボローニャ・フォローアップグループの諮問メンバーとして加わる。

・ボローニャ・プロセスが社会に与える影響という側面の強調。

・高等教育は公に社会の益を追及し、社会に対して責任を負うという点の強調。

〈2003年：ベルリンサミット〉

ベルリンコミュニケ採択。内容は以下の通り。

- ・ 研究活動はヨーロッパの高等教育の重要な位置を占める。『ヨーロッパ高等教育エリア』と『ヨーロッパ研究エリア』は知識を基盤としたヨーロッパ社会の主要な2本の柱である。
- ・ 学士・修士の2つのサイクルだけではなく博士課程という第3のサイクルも重視しなくてはならない。
- ・ 2005年のサミットまで、各国教育大臣は以下の重要な点の進捗を評価する。
  - 1、 提供される教育の質の評価・保証
  - 2、 2サイクル制
  - 3、 学位システムと修学期間

〈2005年：ベルゲンサミット〉

ベルゲンサミットでは、将来的な計画の立案から現実的な計画の実施に行動の重点を移すということで合意がなされた。以下はその具体例。

- ・ ヨーロッパ高等教育エリアの認定要件に関する構想の採択。
- ・ 教育の質保証に関するガイドラインと規格の採択。
- ・ 高等教育が社会に及ぼす影響を重視。
- ・ ヨーロッパ高等教育エリアと世界の他の地域との共同関係の改善の必要性について。
- ・ 2010年以降のヨーロッパ高等教育エリアの発展に取り組むことの高まる重要性について。

以上

参考資料：

Council of Europe 欧州評議会公式サイト

Higher Education and Research - Bologna Process

[http://www.coe.int/t/dg4/highereducation/EHEA2010/BolognaPedestrians\\_en.asp](http://www.coe.int/t/dg4/highereducation/EHEA2010/BolognaPedestrians_en.asp)

EUA (European University Association) 欧州大学協会公式サイト

Publications - Europe's New Higher Education Landscape (PDF)

[http://www.eua.be/fileadmin/user\\_upload/files/Publications/Europe\\_s\\_new\\_higher\\_education\\_landscape.pdf](http://www.eua.be/fileadmin/user_upload/files/Publications/Europe_s_new_higher_education_landscape.pdf)

ノルウェー Ministry of Education and Research 公式サイト

The Bologna Process from a Norwegian Perspective: Towards a European Higher Education Area (2004) (PDF)

[http://www.bologna-bergen2005.no/Docs/Norway/041014Fact\\_Sheet\\_Bologna-Process.pdf](http://www.bologna-bergen2005.no/Docs/Norway/041014Fact_Sheet_Bologna-Process.pdf)

World Education News & Reviews 公式サイト

The Bologna Process –Bologna Terms and Definitions

<http://www.wes.org/ewenr/03Sept/BolognaGlossary.htm>